

ボタンが1つ、また1つと外されていくのを伊吹が感じているとあっという間に上半身が下着姿にされ、ベルフェゴールの手はブラジャーのホックを外した。

あらわになった伊吹の乳首にベルフェゴールの舌先が近づき、先ほどキスをしたときと同じように上下に舐められる。片方の手は優しく開いている方の胸をもむ。

ベルフェゴールは少しの間そうしていると、今度は片方の手をスカートの中に入れた。

「ん！」

ショーツの布ごしにクリトリスがいじられた感触に伊吹は思わず声を上げる。

爪先で引っかかるその感触はとても強烈で、伊吹の快感中枢は素早く反応した。

「気持ち良いの？」

ベルフェゴールの問いかけに伊吹はこくりとうなづいた。

カリカリとベルフェゴールがクリトリスをひっかけばひっかくほど、クリトリスは男性器のように固くなり、ショーツの中は愛液であふれた。

「あ……あ……あ……」

伊吹が快感にあえていっていると胸をいじっていたはずの手がいつの間にかショーツにかかっているのを感じた。ベルフェゴールがショーツを取ると布で抑えられていた愛液が一気にこぼれだす。

「エロい」

外陰部を広げそうつぶやくベルフェゴールの声を聞くと伊吹は一瞬恥ずかしさがこみあげてきた。

「あんまり見ないでよ……」

「嫌だ」

ベルフェゴールの唇がクリトリスを覆い舐め始めた感触を感じると、伊吹は思わず顔をしかめた。

強烈な快感が全身を駆け巡り抵抗する気持ちを失わせる。

「あ……あ……あ……」

しかめられた顔は快感が全身に浸透する度に緩められ、口からは自然とあえぎ声が漏れる。

「あ!？」

ベルフェゴールが膣の中に指を入れると伊吹は思わず鋭い喘ぎ声を上げた。

「あ!あ!……あん!」

指先でのスポットスポットを撫でられ伊吹の全身には何度も強烈な快感が発生した。

そのたび伊吹の口からはあえぎ声が漏れベルフェゴールに自分は快感の中にあるということを訴え続けた。

「はあ。なんだかもう我慢ができない」

ベルフェゴールは全裸になると伊吹の隣になった。

「伊吹、上になってよ」

伊吹が顔をベルフェゴールの方に向けるとその視界には勃起したベルフェゴールのペニスがうつった。